

受賞者のご挨拶

株式会社アルファシステム

代表取締役 佐藤 嘉晃様



ただいまご紹介頂きました、株式会社アルファシステムの佐藤でございます。この度は名誉ある「中小企業振興表彰」を賜り、誠にありがとうございます。社員を代表しまして心より御礼申し上げます。また、日頃からお世話になっておりますお客様や関係各位には感謝の念に堪えません。

弊社は2018年におかげさまで25周年を迎えることが出来ました。1993年に「みなさまの安心をサポートいたします」をスローガンにスタートした会社が、東北、北関東に6拠点を設け1,000件以上の医療機関に安心サポートを提供出来る体制を整えることが出来ました。

弊社は設立当初、診療所の医療事務コンピュータ（通称レセプトコンピュータ）の販売・保守からスタートし、診療所向け電子カルテシステムの販売・保守で東北、北関東に拠点を設け成長してまいりました。

電子カルテは当初、大手メーカーの商品を取り扱うことが出来ませんでした。私たちはいろいろな電子カルテを見て、先生方のニーズにお応えすべく、カスタマイズ出来るメーカーで、キーボードが苦手な先生、事務員でも簡単に操作できる電子カルテメーカーを採用いたしました。その商品に、先生方や看護師さんなどのニーズをお聞きし、簡易画像ファイリング「AF-1」を開発、より高い付加価値を付けて商品化しました。今では電子カルテを販売する上で

必須の商品となりました。

また、iPadを使った電子問診票も好評で、受付事務、看護師さんの問診時間の軽減にかなりの効果を出すことが出来ました。おかげさまで弊社取り扱いクリニック向け電子カルテは、茨城県、栃木県ではシェアNo.1をとることができ、他社と差別化する強力な商品となっております。これもお客さま目線でカスタマイズ開発に力を入れた結果だと思っております。

次に、我が社の第二の事業として地域医療連携があります。2011年の東日本大震災を契機に、みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会（通称MMWIN）の調剤情報システムに参加し、地域医療連携に携わることが出来ました。現在、宮城県内では約500軒の薬局様にお使いいただいております。官・民・学プロジェクトに参加して、仙台支店社員は地域医療のあり方を勉強させて貰いました。おかげさまで、その後岩手県久慈医療圏の「北三陸塾」、福島県医療福祉情報ネットワーク協議会の「キピタン健康ネット」からお声がかかり、地域医療情報ネットワークとICTで地域医療システムをサポートできる会社に成長いたしました。

弊社がこのようなプロジェクトに参加することによって、社員がチャレンジする姿勢とスキルアップ、社会貢献を意識できるようになったのは大変良かったと思っております。私を含め人は大きな仕事を成し遂げる事によって人間的

にも大きくなり成長していくのだと感じ、社員に仕事を任せ成長させる大切さを学びました。

このような経験を経て地域医療の課題・問題に真摯に取り組むことが、弊社の将来のためだと強く意識するようになり、勉強会、研究会に積極的に参加し、社員教育に力を入れ、地域医療連携事業を第二の柱として頑張っております。

また、「平成29年度総務省IoTサービス創出支援事業」に109の公募の中から採択された9事業所の一つに選ばれたことは大変ありがたく、且つ秋田県初の採択と聞かされ、より一層精進しないといけない気持ちになりました。この事業は弊社がコンソーシアムの代表企業となり、秋田県、仙北市、秋田ケーブルテレビなどが参加いたしました。実証事業期間中はメンバーの皆様には大変お世話になり感謝しております。

「ウェアラブルデバイスにより高齢者療養の場における日常生活リスクを予防する医療IoTシステムの構築」をテーマに、玉川温泉、仙北市の健康施設クリオン、老人介護施設での実証期間が冬にかかり、通行規制もあり大変でしたが、湯治客からのアンケートでは「来年も湯治に来たときは健康アドバイスを受けたい」など、玉川温泉からも「健康アドバイスレポートを今後も使いたい」などお聞きし、ビジネスモデルが見えた感じがします。高齢者の日常生活リスク予防の課題が明確になり、ウェアラブルなどのIoTデバイスは高齢者にかなり有効であることがわかりました。

ちょうどその時期に、大変お世話になっている秋田産業サポータークラブの藤盛会長から秋田大学・東京工業大学・秋田県医師会の「三者間連携支援コンソーシアム」の事務局として手伝って欲しいと言われ、事務局長、代表幹事を引

き受けました。

喜寿を迎えても元気な藤盛会長の「医理工連携で秋田の企業を大きく育てるのが私の秋田に対する最後の貢献だ」という熱意と社会貢献意欲に共感して事務局を引き受けた次第です。

「まずは佐藤さんから医理工連携で何かつくれ」、「これからのテーマはフレイル(※)がキーワードだ」と言われ、秋田大学整形外科との共同開発でセンサーを用いたフレイル予防に役立つ運動機能改善指導プログラムを開発いたしました。そして劇団わらび座様と共同で、秋田民謡など地元ゆかりの曲に合わせて踊るだけで転倒予防が出来る舞踊プログラムを開発しました。(※) 健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態。

今年度はこれを全国展開するつもりでおります。おかげさまで大手事務機メーカーが取り扱ってくれることになりました。

今後弊社は、ICT・IoTを使った商品開発により、秋田県の健康寿命日本一を支えていきたいと思っております。そして、その商品を秋田から全国に、アジアへと発信してゆき、メディカルイノベーションカンパニーとして、地域社会・医療・街づくりに貢献してまいります。この度の表彰に深く感謝し、御礼を申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

(会社概要)

事業内容	医療情報システム・地域医療連携・健康寿命延伸事業・販売・開発・保守
設立	平成5年10月
資本金	1,000万円
従業員数	50名
売上高	10億7,000万円(平成30年9月期)